

自閉スペクトラム症者のエコラリアが示す心情の理解

○ 新田 順子 井澤 信三
（兵庫教育大学大学院 特別支援教育専攻）
Key words：自閉スペクトラム症，エコラリア，心情

【目的】

本研究では、自閉スペクトラム症者（以下、ASD 者）が発する非慣用的言語行動であるエコラリアの心情を整理分類し、それに応じた対応による変化を検討することを目的とする。

【方法】

1. 対象者

B 型就労支援事業所に通う知的障害を伴う ASD 者であった。エコラリアが会話の 5 割を占め、2 語文を主としコミュニケーション能力に制限が多かった。エコラリアの内容は、日本語、英語、広東語など複数の言語を用いてアニメのセリフを繰り返して発するものであった。

2. 倫理的配慮

倫理的配慮のため、事前に研究概要を調査対象者と支援者に伝え同意書を得た。結果の公表についても同意書を得た。

3. 調査期間

令和 3 年 2 月～3 月であった。

4. 研究デザイン及び手続き

本研究では、エコラリアの生起に関する調査を行い、その結果から、エコラリアの心情による「判別シート」を作成した。次に、その 4 種類に対してどのように対応方法を変更するのか「対応シート」を作成し、AB デザインにより、4 種類のエコラリア毎に対応を変更することによる変化を検討した。

（1）エコラリアの生起に関する調査

1) 事前調査

自宅で生起していたエコラリアの観察記録から、表情・態度等から「高揚、笑顔、規制、不安」の 4 種類のエコラリアに仮定する分別を行なう「判別シート」を仮作成した。

2) 本調査

連続 7 日間の調査期間を設けた。調査対象者が所属先で担当している作業場面において発しているエコラリアとその背景事象について、「記録シート」を用いて行動観察を実施した。

3) 観察記録の感情分析 AI とその結果

「記録シート」に記された観察記録（言語）を AI テキストマイニング（感情分析 AI）（User Local : <https://textmining.userlocal.jp/>）により分析をした。

事前調査 7 日目のエピソードで、苦手な同僚が近づいた際には不安のエコラリアが出現し、離れた際にそれは消失し、笑顔のエコラリアへと変化した。さらにその同僚に叱責されないように「静かに」と規制をかけるエコラリアが出現していた。これらエコラリアの判定結果 (Fig.1 参照) は「判定シート」によるものであるが、観察記録（言語）の感情分析 AI によるポジティブとネガティブの感情変化 (Fig.2 参照) においても、同様の変化が出現していることが確認できた。

4) エコラリアの種類と判別・対応シートの作成

心情を理解するためのエコラリアの種類について、気分が高まりすぎている状態のときに発する「高揚のエコラリア」、楽しく気分が良いときに発する「笑顔のエコラリア」、社会生活上で必要なルールを守ろうとするとときに発する「規制のエコラリア」、不安や恐怖、時には怒りの感情を抱いている際に発する「不安のエコラリア」とした。

なお、4 種類の判別は、表情では「笑顔の有無」「眉間にしわの有無」「首を傾げて目を細める行為の有無」、多動か否かの判定は「室内移動を繰り返す行為の有無」、声のトーンは普段の話し言葉との比較により「裏声になっているか」「口調の速さとキツさ」で行なった。

これまでの調査結果から「判別シート」と「対応シート」を完成させた。

（2）AB デザインによる対応変更の効果の検討

1) ベースライン

ベースライン（7 日間）では、指導や支援方法に変更を加えなかった。支援者には「記録シート」を用いて、エコラリアと作業量などの記録を依頼した。

2) 介入

介入時（5 日間）には「判別シート」に従い、エコラリアを 4 種類に判別し、判別したエコラリアに対して「対応シート」を用いて、環境調整・操作を行った。具体的には、作業量は基本量を 100 とし、増減は 10 単位ずつ行い、10 単位ごとに付箋をつけ視覚化し、本人に知らせた。

3) 評価方法

（1）作業量

「笑顔のエコラリア」には作業増量、「不安のエコラリア」には作業減量、あるいは不安要因を取り除くなどの変更を行い、その作業量を支援者が記録した。

（2）エコラリアの種類毎の生起状況

生起したエコラリアを「判別シート」によって判定し、その生起状況を記録した。

【結果及び考察 (Fig. 3 参照)】

「笑顔のエコラリア」では、作業量の増加を提案する変更を行っても、「うん！いいよ」と笑顔で答え、積極的に作業に取り組むことができた。「不安のエコラリア」では、発言後に作業量の減量を行うと、好転的な変化が見られた。これらのことから、エコラリアの種類によって対応方法を変更することが、ASD 者の心理的負担を減らすことに繋がり、気分がよいときには、自らの意思で積極的に作業を増やし、それによって「よくできました」と賞賛を得られたことによって強化することができた。また気分が優れないときには、心理的負担を軽減することで、作業効率のよい状態に変化することがわかった。以上によって「対応シート」による心理的負担軽減の効果が認められたと考える。



Fig.1 エコラリアの結果

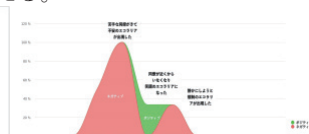


Fig.2 感情分析 AI の結果



Fig.3 介入時の作業推移の変化

(NITTA Junko, ISAWA Shinzo)